

令和7年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立調布大塚小学校

Ⅰ 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・習熟度別指導を展開し、児童の習熟に合わせて既習事項を確認したり、ドリル学習などで繰り返し復習したりすることにより、学習内容理解が深まり、基礎となる学力が向上した。
- ・電子黒板やデジタル教科書などの ICT 機器を活用し、視覚的に分かりやすい授業を行うことによって、基礎的な力が身に付いた。
- ・学習で学んだことを自分の言葉で説明したり、伝え合ったりする活動を多く設けることにより、思考判断を問われる問題にもしっかりと答えられるようになった。

(2) 課題

- ・長さや重さなどの量感を意識させるために、道具を使った具体的な操作活動が不十分であった。
- ・図形分野の作図について、正しい用具操作の仕方や手順を身に付けさせるために、図形の構成要素や、作図の方法を説明させる活動が不十分であった。
- ・計算の仕組みを使う問題では、四則計算が混じった問題でも、工夫して計算できる良さや仕方を理解させることが不十分であった。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率(経年比較)

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	△		
第5学年	△	△ (第4学年時)	
第6学年	△	△ (第5学年時)	△ (第4学年時)

(2) 分析(観点別)

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・目標値と比較すると大きく上回っている。	・目標値と比較すると大きく上回っている。	・目標値と比較すると大きく上回っている。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・目標値と比較すると大きく上回っている。	・目標値と比較すると大きく上回っている。	・目標値と比較すると大きく上回っている。

3 授業改善のポイント(観点別)

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・足し算や引き算や九九など、計算の基礎を確かなものにするために、ドリルパークを活用し個々の学力に合わせた問題に取り組ませる。 ・身の回りにあるものの長さ、広さ、かさについて具体的な操作活動を増やすことで、長さや量の感覚を豊かにする。	・数のまとまりや、数量の関係に着目し、計算の仕方を工夫したり計算の確かめをしたりする。 ・自分の考えを深めたり、教わったことの理解を確かなものにしたるために、児童同士で説明する活動を取り入れる。	・児童にとって身近なものを使って、長さや、かさを体感できるような数学的活動を行う。 ・苦手意識をもたずに学習活動で達成感を得られるよう、スモールステップ学習を行う。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・九九やわり算などの計算力を高めるために、目的を明確にした反復学習を行う。 ・長さ、広さ、円、重さについての算数的活動を行い、長さや量の感覚を豊かにする。 ・ドリルパークを單元ごとに活用し、児童に、確実に技能が定着するようにする。	・数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、計算の確かめをしたりする。 ・図形を構成する要素に着目して、図形の性質などを使って説明する活動を多く取り入れる。	・児童にとって身近なものを教材にし、長さやかさ、重さを体感できるような算数的活動を行う。 ・意欲をもって自分の考えを発表できるように、ペア、グループでの活動など、友達と関わりながら学習を進める時間を多く取り入れる。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・分数の通分や約分などの計算力を高めるために、既習事項を振り返りながら学習を行ったり、ドリルパークを活用したりして反復学習を取り入れる。 ・図形の学習では、前学年までの内容を復習する時間を取るとともに、図形の構成要素に着目し、性質を使って作図したり、作図の仕方を説明したりできるようにする。	・正しく演算決定し、正確な解答を導くために、数や式の意味と表現について成り立つ性質に着目し、計算の仕方を考えられるようにする。 ・図形を構成する要素や性質に着目し、筋道を立てて作図や面積などの求め方を考え、自分の言葉で説明する。 ・自分の考えをペアやグループで互いに説明したり、教えたりする活動を増やす。	・学習内容を生活に生かせるようにするために、身近に感じられる教材を準備したり、数学的活動を取り入れ実際に計測したり、体験したりする場を作る。 ・意欲的に学習に取り組めるように、生活との関連や教科横断的な視点を取り入れ、自ら説明したくなるような場面を設定する。